

消化器外科を受診している患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	膵頭十二指腸切除における幽門輪の意義に関する後方視的観察研究 －日本肝胆膵外科学会プロジェクト研究－
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 藤原祥裕
担当科等	消化器外科
研究責任者	(職名) 講師 (氏名) 深見保之
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	和歌山県立医科大学 外科学第2講座 准教授 川井 学
研究の意義・目的	膵頭十二指腸切除術の術式における胃内容排出遅延発生を主要評価項目として、膵頭部切除時の幽門輪切除が胃排泄遅延を減少させるかを検証します。
対象となる患者さん	当該施設において2015年1月1日から2017年12月31日までの期間に行われた膵頭部領域疾患(膵癌、胆管癌、 Vater 乳頭部癌、十二指腸癌、膵管内乳頭粘液腫瘍、膵内分泌腫瘍、膵嚢胞性疾患など)のために幽門輪温存膵頭十二指腸切除(PpPD)、幽門輪切除膵頭十二指腸切除(PrPD)、亜全胃温存膵頭十二指腸切除(SSPPD)が行われた患者さん。
研究の方法	既存の診療録情報を用いた、多施設共同後方視的観察研究です。 日本肝胆膵外科学会の高度技能専門医 認定修練施設にアンケート調査として、該当期間の膵頭部領域腫瘍のためにPpPD、PrPD、SSPPDが行われた患者を調査し、参加の可否について調査を行います。参加の同意が得られた施設に対し症例調査を依頼し、連結不可能匿名化の処理を行ったデータ集積を行います。 詳しい研究計画及び研究の方法に関する資料を入手や閲覧することができます。ご希望の場合は、下記問い合わせ先にご連絡下さい。
研究期間	倫理審査承認日 ～ 2021年12月31日
研究に用いる試料・情報	診療情報から、年齢、性別、手術情報等を使用します。
外部への試料・情報の提供	匿名化した情報を患者調査票を用いて提供します。

試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、2021年6月30日までに下記問い合わせ先まで申し出てください。
問い合わせ先	愛知医科大学 医学部外科学講座（消化器外科） 担当者：（職名）講師 （氏名）深見保之 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311（内線 22121）